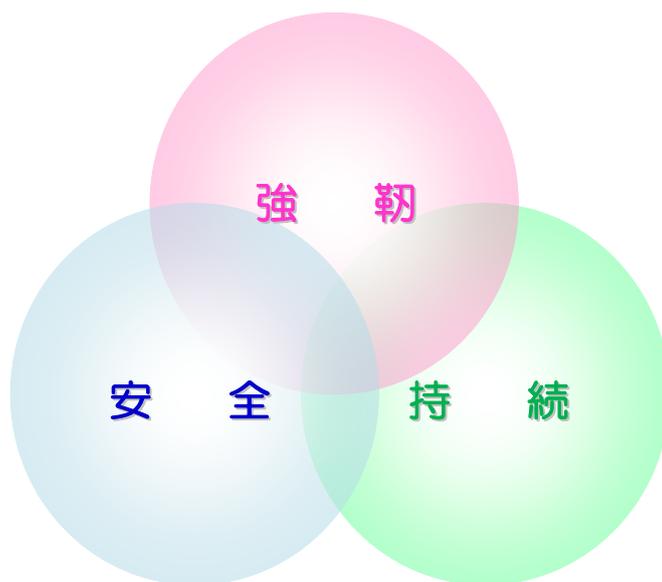


新・新潟市水道事業中長期経営計画～新・マスタープラン～

中期実施計画（令和元年度）の取り組み状況

概要版



令和2年9月

新潟市水道局

目次

趣旨、事業評価の概要・・・P1

事業・取り組み担当課1次評価結果一覧・・・P2

1次評価結果概要・・・P3～P4

2次評価結果概要・・・P5～P7

事業・取り組みの実施状況・・・P8～P11

重点目標の推移・・・P12～14

令和元年度の評価結果、
取組み状況を報告します。



水太郎

趣旨

本市では、平成27年3月に将来にわたって「すべてのお客さまに信頼される水道」を基本理念とし、**「新・新潟市水道事業中長期経営計画～新・マスタープラン～」**（平成27年度～令和6年度）を策定し、事業を推進しています。また、目指す方向性実現のため、具体的な事業・取り組みと、財政計画などを定めた**「新・マスタープラン実施計画」**（計画期間：前期3年、中期3年、後期4年）を策定し、毎年度行う事業評価の結果を踏まえ、今後の事業に活用していくこととしています。

事業評価の概要

「新・マスタープラン中期実施計画」は、3つの方向性「安全」「強靱」「持続」を実現するために、8つの施策を設け、31の「事業取り組み」を行っています。評価については、1次評価は所管課で「事業取り組み」ごとに、効率性、有効性の評価をし、2次評価は外部機関の水道事業経営審議会で次年度以降の方向性を評価します。

1次評価

効率性総合評価

効率性 A	・・・ 非常に高い
効率性 B	・・・ 高い
効率性 C	・・・ 普通
効率性 D	・・・ 低い
効率性 E	・・・ 非常に低い

有効性総合評価

有効性 A	・・・ 非常に高い
有効性 B	・・・ 高い
有効性 C	・・・ 普通
有効性 D	・・・ 低い
有効性 E	・・・ 非常に低い

2次評価

方向性総合評価

拡充	・・・ 今まで以上に力を入れて事業に取り組むことが適当
維持	・・・ 今までどおり事業に取り組むことが適当
終了（完了）	・・・ 事業・取り組みは終了した
改善・見直し	・・・ 事業内容の改善や見直しを検討し取り組むことが適当
縮小	・・・ 事業の取り組み規模を縮小することが適当

事業・取り組み担当課・1次評価結果一覧

方向性	施策	事業・取組み	担当課	効率性	有効性	
安全でおいしい水道水の供給 《安全》	I 水質管理の充実・強化	I-1 水源水質の監視	水質管理課	C	C	
		I-2 水安全計画の充実・適切な運用	水質管理課	C	C	
		I-3 水質管理体制の強化	水質管理課	C	C	
		I-4 新潟市独自の管理目標による水質管理	水質管理課 (浄水課)	B	C	
		I-5 分かりやすい水質情報の提供	水質管理課	C	C	
	II 給水装置における 水質保持	II-1 学校施設の水飲み水栓の直結給水化	管路課	B	C	
		II-2 貯水槽清掃率向上に向けた新たな啓発活動の検討・実施	管路課	C	B	
II-3 指定給水装置工事事業者の技術力向上		管路課	C	C		
強靱な施設・体制による給水確保 《強靱》	III 水道施設の計画的更新	III-1 浄配水施設の計画的更新	計画整備課	C	C	
		III-2 管路施設の計画的更新	計画整備課	C	A	
		III-3 鉛給水管の計画的更新	管路課	C	B	
	IV 災害対策・体制の強化	IV-1 浄配水施設の計画的耐震化	計画整備課	C	C	
		IV-2 管路施設の計画的耐震化	計画整備課	C	B	
		IV-3 重要施設向け配水管の耐震化	計画整備課	C	A	
		IV-4 配水管網のブロック化の推進	管路課	C	C	
		IV-5 大ブロック間の相互連絡管の整備	管路課	A	A	
		IV-6 事故・災害時における復旧体制の強化	経営管理課	C	C	
	環境の変化に柔軟に対応した 健全な事業運営の持続 《持続》	V 経営基盤の強化	V-1 アセットマネジメントによる適正な資産管理	計画整備課	C	C
			V-2 定員・給与の適正化	総務課	C	B
V-3 業務効率化に向けた民間委託の検討・実施			経営管理課	C	C	
V-4 遊休資産の有効活用			経営管理課	C	C	
V-5 時代に即した料金制度等の検討・実施			経営管理課	C	C	
V-6 水道事業経営審議会の効果的運用			経営管理課	C	C	
VI 積極的な情報提供と お客さまニーズの把握		VI-1 戦略的な広報の実施	総務課	C	A	
		VI-2 お客さまの意見・要望の把握	総務課	C	C	
		VI-3 分かりやすい経営情報の開示	経営管理課	C	C	
		VI-4 放射性物質を含む浄水汚泥の適切な管理と情報提供	経営管理課	C	C	
VII 技術・知識を有する 人材の確保と育成		VII-1 人材育成と専門性の強化	総務課	B	C	
		VII-2 諸外国との水道技術研究交流	総務課	C	A	
VIII 環境に配慮した事業運営		VIII-1 建設副産物の再利用促進	技術管理室	C	A	
		VIII-2 水道局環境計画の策定と推進	経営管理課	C	C	

1次評価結果の概要

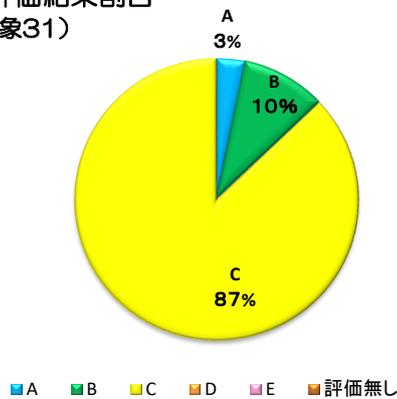
1. 1次評価結果の集計

(1) 効率性評価

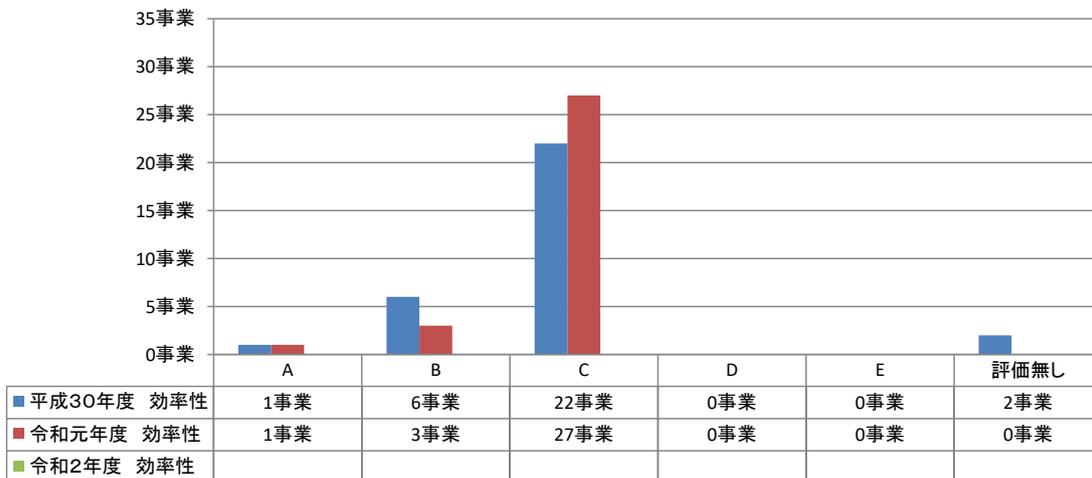
評価値	事業数	備考
A	1事業	IV-5大ブロック間の相互連絡管の整備
B	3事業	I-4新潟市独自の管理目標による水質管理 II-1学校施設の水飲み水栓の直結給水化 VII-1人材育成と専門性の強化
C	27事業	
D	0事業	
E	0事業	
—	0事業	
計	31事業	

効率性評価は、当該事業・取組みが、コストに見合った結果が出ているか、実施手段が効率的であったか評価するものです。評価全体では、評価点9～10点の「A非常に高い」評価事業は1事業、3%、評価点7～8点の「B高い」評価事業は3事業、10%、5～6点の「C普通」評価事業は27事業、87%でした。31事業中31事業、全ての事業が効率性の目標を達成しました。

効率性評価結果割合
(評価対象31)



効率性評価結果の経年変化

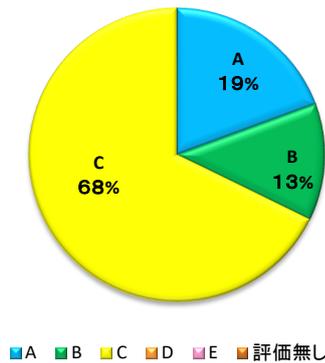


(2)有効性評価

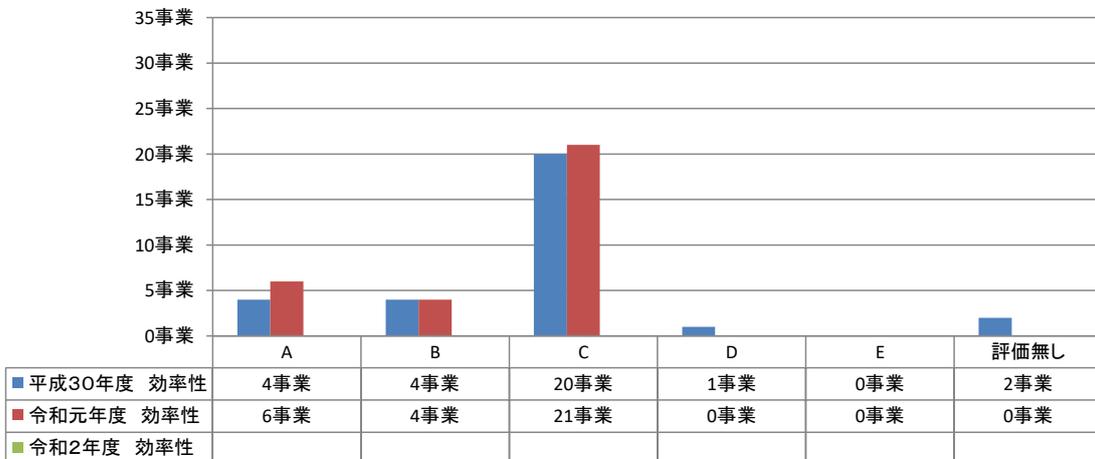
評価値	事業数	備考
A	6事業	Ⅲ-2管路施設の計画的更新 Ⅳ-3重要施設向け配水管の耐震化 Ⅳ-5大ブロック間の相互連絡管の整備 Ⅵ-1 戦略的な広報の実施 Ⅶ-2諸外国との水道技術研究交流 Ⅷ-1建設副産物の再利用促進
B	4事業	Ⅱ-2貯水槽清掃率向上に向けた新たな啓発活動の検討・実施 Ⅲ-3鉛給水管の計画的更新 Ⅳ-2管路施設の計画的耐震化 V-2定員・給与の適正化
C	21事業	
D	0事業	
E	0事業	
—	0事業	
計	31事業	

有効性評価は、重点目標等を達成するために有効であったか、期待する結果・効果（成果）は得られたか評価するものです。有効性総合評価の結果は、評価9～10点の「A非常に高い」評価事業は6事業、19%、7～8点の「B高い」評価事業は4事業13%でした。5～6点の「C普通」評価事業は21事業、68%、31事業中31事業、全ての事業が有効性の目標を達成しました。

有効性評価結果割合
(評価対象31)



有効性評価結果の経年変化



2次評価結果の概要

1. 2次評価結果の目的

「すべてのお客さまに信頼される水道」であるためには、お客さまの視点として、外部機関である水道事業経営審議会で、各事業取り組みの実施状況、目標の達成度などを確認したうえで、効率性、有効性、についての評価を受け、今後の方向性を明確にしていくことを目的としています。

2. 2次評価結果の集計

評価値	拡充	維持	終了（完了）	改善・見直し	縮小	計
事業数		31事業				31事業



3. 経営審議会2次評価結果

施策	事業・取り組み	水道局1次評価		方向性	経営審議会評価
		効率性	有効性		
I 水質管理の充実・強化	I-1 水源水質の監視	C	C	維持	引き続き、計画に沿って事業を推進すること。
	I-2 水安全計画の充実・適切な運用	C	C	維持	引き続き、計画に沿って事業を推進すること。なお、水安全計画の運用・評価に際しては、PDCAサイクルの確実な推進に留意すること。
	I-3 水質管理体制の強化	C	C	維持	引き続き、計画に沿って事業を推進すること。
	I-4 新潟市独自の管理目標による水質管理	B	C	維持	引き続き、計画に沿って事業を推進すること。
	I-5 分かりやすい水質情報の提供	C	C	維持	引き続き、計画に沿って事業を推進すること。
II 給水装置における水質保持	II-1 学校施設の水飲み水栓の直結給水化	B	C	維持	引き続き、計画に沿って事業を推進すること。
	II-2 貯水槽清掃率向上に向けた新たな啓発活動の検討・実施	C	B	維持	高い貯水槽清掃率を維持するために、引き続き、計画に沿って事業を推進すること。
	II-3 指定給水装置工事事業者の技術力向上	C	C	維持	引き続き、計画に沿って事業を推進すること。
III 水道施設の計画的更新	III-1 浄配水施設の計画的更新	C	C	維持	水道システム維持の根幹をなす事業であることから、引き続き計画的な更新投資とその進捗管理を実施し、計画に沿った事業推進に努めること。
	III-2 管路施設の計画的更新	C	A	維持	水道システム維持の根幹をなす事業であることから、引き続き計画的な更新投資とその進捗管理を実施し、計画に沿った事業推進に努めること。
	III-3 鉛給水管の計画的更新	C	B	維持	引き続き、計画に沿って事業を推進すること。
IV 震災対策・体制の強化	IV-1 浄配水施設の計画的耐震化	C	C	維持	水道システム維持の根幹をなす事業であることから、引き続き計画的かつ効率的に事業を推進すること。
	IV-2 管路施設の計画的耐震化	C	B	維持	水道システム維持の根幹をなす事業であることから、引き続き計画的かつ効率的に事業を推進すること。
	IV-3 重要施設向け配水管の耐震化	C	A	維持	引き続き、計画に沿って事業を推進すること。
	IV-4 配水管網のブロック化の推進	C	C	維持	引き続き、計画に沿って事業を推進すること。
	IV-5 大ブロック間の相互連絡管の整備	A	A	維持	引き続き、計画に沿って事業を推進すること。
	IV-6 事故・災害時における復旧体制の強化	C	C	維持	引き続き、計画に沿って事業を推進すること。なお、新型コロナウイルス感染症の全世界的な感染拡大状況を鑑み、感染症流行下における水道事業の継続および安定した事業運営のために、各種計画やマニュアルの策定・改訂、物資調達ルート確保や備蓄等、必要に応じて適切な対応を講ずること。また、各種災害時の対応や復旧体制については、マニュアル類の継続的な点検・改善や訓練の定期実施等を通して、発生時に有効に機能するように努めること。

施策	事業・取り組み	水道局1次評価		方向性	経営審議会評価
		効率性	有効性		
V経営基盤の強化	V-1 アセットマネジメントによる適正な資産管理	C	C	維持	引き続き、計画に沿って事業を推進すること。
	V-2 定員・給与の適正化	C	B	維持	引き続き、計画に沿って事業を推進すること。
	V-3 業務効率化に向けた民間委託の検討・実施	C	C	維持	引き続き、計画に沿って事業を推進すること。
	V-4 遊休資産の有効活用	C	C	維持	引き続き、計画に沿って事業を推進すること。
	V-5 時代に即した料金制度等の検討・実施	C	C	維持	引き続き、計画に沿って事業を推進すること。
	V-6 水道事業経営審議会の効果的運用	C	C	維持	引き続き、計画に沿って事業を推進すること。
VI積極的な情報提供とお客さまニーズの把握	VI-1 戦略的な広報の実施	C	A	維持	引き続き、計画に沿って事業を推進すること。
	VI-2 お客さまの意見・要望の把握	C	C	維持	引き続き、計画に沿って事業を推進すること。
	VI-3 分かりやすい経営情報の開示	C	C	維持	引き続き、計画に沿って事業を推進すること。
	VI-4 放射性物質を含む浄水汚泥の適切な管理と情報提供	C	C	維持	引き続き、計画に沿って事業を推進すること。
VII技術・知識を有する人材の確保と育成	VII-1 人材育成と専門性の強化	B	C	維持	引き続き、計画に沿って事業を推進すること。
	VII-2 諸外国との水道技術研究交流	C	A	維持	引き続き、計画に沿って事業を推進すること。
VIII環境に配慮した事業運営	VIII-1 建設副産物の再利用促進	C	A	維持	引き続き、計画に沿って事業を推進すること。
	VIII-2 水道局環境計画の策定と推進	C	C	維持	引き続き、計画に沿って事業を推進すること。

事業・取り組みの実施状況

安全でおいしい水道水の供給

すべてのお客さまに、いつでもどこでも、安全でおいしい水道水を供給する水道を目指します。

施策Ⅰ 水質管理の充実・強化

主な取り組み

- I-1 水源水質の監視
 ・水源の監視及び調査の実施
 I-2 水安全計画の充実・適切な運用
 ・水安全計画の評価・見直しの実施
 I-3 水質管理体制の強化
 ・水道GLPの維持・更新
 ・人材育成及び技術継承

- I-4 新潟市独自の管理目標による水質管理
 ・独自管理目標値による水質管理
 I-5 分かりやすい水質情報の提供
 ・啓発活動の継続
 ・分かりやすい情報提供

I-1 水源水質の監視	評価結果	効率性 C	有効性 C
目標設定項目（評価指標）		目標	実績
河川水質事故による水道水の影響		0%	0%
目標設定項目（評価指標）		目標/目標累計	実績/実績累計
水道原水の水質調査		2回	2回
浄水施設での対応が困難な物質の監視		4回	4回

I-4 新潟市独自の管理目標による水質管理	評価結果	効率性 B	有効性 C
目標設定項目（評価指標）		目標	実績
農薬濃度管理目標達成率		100%	100%
総トリハロメタン濃度管理目標達成率		100%	100%
残留塩素管理目標達成率		91%	90%
臭気強度管理目標達成率		100%	100%

I-2 水安全計画の充実・適切な運用	評価結果	効率性 C	有効性 C
目標設定項目（評価指標）		目標	実績
浄水場「水安全計画」の評価実施率		100%	100%

I-5 分かりやすい水質情報の提供	評価結果	効率性 C	有効性 C
目標設定項目（評価指標）		目標/目標累計	実績/実績累計
体験型広報年間実施数		12回	12回

I-3 水質管理体制の強化	評価結果	効率性 C	有効性 C
目標設定項目（評価指標）		目標	実績
検査機器の保守点検実施率		100%	100%
教育訓練実施率		100%	100%
目標設定項目（評価指標）		目標/目標累計	実績/実績累計
水質検査の公表回数		12回	12回



施策Ⅱ 給水装置における水質保持

主な取り組み

- II-1 学校施設の水飲み水栓の直結給水化
 ・教育委員会との連携
 II-2 貯水槽清掃率向上に向けた新たな啓発活動の検討・実施
 ・民間清掃会社との連携
 ・貯水槽施設衛生管理訪問指導業務の実施

- II-3 指定給水装置工事事業者の技術力向上
 ・指定給水工事事業者に対し講習会参加を要請
 ・適切な施工確保のため、講習内容を見直し実施

II-1 学校施設の水飲み水栓の直結給水化	評価結果	効率性 B	有効性 C
目標設定項目（評価指標）		目標/目標累計	実績/実績累計
学校施設の水飲み水栓の直結給水化率		前年度(66.1%)以上	65.9%

II-3 指定給水装置工事事業者の技術力向上	評価結果	効率性 C	有効性 C
目標設定項目（評価指標）		目標	実績
給水装置に係る事故件数		0件	0件
指定給水装置工事事業者講習会参加率		前年度(75%)以上	65.2%

II-2 貯水槽清掃率向上に向けた新たな啓発活動の検討・実施	評価結果	効率性 C	有効性 B
目標設定項目（評価指標）		目標	実績
貯水槽清掃実施率（簡易専用水道）		93.5%	96.4%
貯水槽清掃実施率（小規模貯水槽水道）		66.0%	70.2%
貯水槽清掃実施率（全体清掃率）		77.2%	81.0%

強靱な施設・体制による給水の確保

自然災害等による被災を最小限にとどめ、断水等が発生した場合であっても、迅速に復旧できるしなやかな水道を目指します。

施策Ⅲ 水道施設の計画的更新

主な取組み

- | | |
|--|--|
| <p>Ⅲ-1 浄配水施設の計画的更新</p> <ul style="list-style-type: none"> 阿賀野川浄水場施設整備事業
電気設備更新工事の実施（令和元年度完了予定）
監視制御設備更新工事の実施（令和元年度完了予定） 配水場整備事業
南浜配水場電気設備等更新工事の実施（令和2年度完了予定）
内島見配水場ポンプ設備等更新工事の実施（令和2年度完了予定） 経年劣化した設備の個別整備 | <p>Ⅲ-2 管路施設の計画的更新</p> <ul style="list-style-type: none"> 基幹管路更新 配水支管更新 <p>Ⅲ-3 鉛給水管の計画的更新</p> <ul style="list-style-type: none"> 小口径老朽管更新（ガス工事競合） 小口径老朽管更新（局単独工事） 他工事に関連する鉛給水管更新（下水道工事） 鉛給水管更新（戸別） 検定満期メータの取替に伴う更新 |
|--|--|

Ⅲ-1 浄配水施設の計画的更新	評価結果	効率性 C	有効性 C
目標設定項目（評価指標）		目標	実績
阿賀野川浄水場施設整備事業		実施	実施
配水場施設整備事業		実施	実施

Ⅲ-2 管路施設の計画的更新	評価結果	効率性 C	有効性 A
目標設定項目（評価指標）		目標/目標累計	実績/実績累計
基幹管路更新延長 ※評価指標の延長は発注延長（計画値）を使用		2,000m 5,300m	4,495m 7,764m
配水支管更新延長 ※評価指標の延長は発注延長（計画値）を使用		13,100m 26,600m	13,444m 28,033m



施策Ⅳ 災害対策・体制の強化

主な取組み

- | | |
|---|---|
| <p>Ⅳ-1 浄配水施設の計画的耐震化</p> <ul style="list-style-type: none"> 構内水管
阿賀野川浄水場構内水管の耐震化および配水池耐震補強の実施（令和元年度完了予定） <p>Ⅳ-2 管路施設の計画的耐震化</p> <ul style="list-style-type: none"> 基幹管路更新事業・配水支管更新事業に併せて管路施設の耐震化を実施 <p>Ⅳ-3 重要施設向け配水管の耐震化</p> <ul style="list-style-type: none"> 計画に基づき重要施設向け配水管の耐震化を実施（行政機関：1施設 医療機関：1施設） | <p>Ⅳ-4 配水管網のブロック化の推進</p> <ul style="list-style-type: none"> 基幹管路に併せた小ブロックの構築（小ブロック構築数0ブロック） <p>Ⅳ-5 大ブロック間の相互連絡管の整備</p> <ul style="list-style-type: none"> 巻浄水場系～戸頭浄水場系連絡管整備 青山浄水場系～南山配水場系連絡管整備 <p>Ⅳ-6 事故・災害時における復旧体制の強化</p> <ul style="list-style-type: none"> 各種災害時マニュアルの作成・更新 マニュアルに基づく訓練の実施 拠点給水所の周知方法の検討・実施 |
|---|---|

Ⅳ-1 浄配水施設の計画的耐震化	評価結果	効率性 C	有効性 C
目標設定項目（評価指標）		目標・目標累計	実績・実績累計
【建築物】（完了数/全計画数）		0/2 / 0/2	—
【土木構造物】（完了数/全計画数）		4/13 / 4/13	4/13 / 4/13

Ⅳ-4 配水管網のブロック化の推進	評価結果	効率性 C	有効性 C
目標設定項目（評価指標）		目標/目標累計	実績/実績累計
小ブロック構築率		95.6%	81.5%

Ⅳ-2 管路施設の計画的耐震化	評価結果	効率性 C	有効性 B
目標設定項目（評価指標）		目標/目標累計	実績/実績累計
管路耐震適合率 ※評価指標の進捗は、工事の発注により行う		70.0%	69.0%
基幹管路耐震適合率 ※評価指標の進捗は、工事の発注により行う		64.7%	65.3%

Ⅳ-5 大ブロック間の相互連絡管の整備	評価結果	効率性 A	有効性 A
目標設定項目（評価指標）		目標/目標累計	実績/実績累計
相互連絡管整備延長（巻～戸頭系）		1,270m 4,620m	1,095.3m 5,032.6m
相互連絡管整備延長（青山～南山系）		500m 1,000m	696.9m 1,208.6m

Ⅳ-3 重要施設向け配水管の耐震化	評価結果	効率性 C	有効性 A
目標設定項目（評価指標）		目標/目標累計	実績/実績累計
重要施設向け配水管の耐震化 ※評価指標の進捗は、工事の発注により行う		1施設 3施設	2施設（見込み） 5施設（見込み）

Ⅳ-6 事故・災害時における復旧体制の強化	評価結果	効率性 C	有効性 C
目標設定項目（評価指標）		目標	実績
各種マニュアルの作成・見直し		実施	実施
マニュアルに基づく訓練の実施		実施	実施
拠点給水所の周知方法の検討・実施		実施	実施
目標設定項目（評価指標）		目標/目標累計	実績/実績累計
給水車用常設注水設備の整備		1箇所	1箇所

環境の変化に柔軟に対応した健全な事業運営の持続

給水人口や給水量が減少した状況においても、健全かつ安定的な事業運営が可能な水道を目指します。

施策V 経営基盤の強化

主な取組み

- V-1 アセットマネジメントによる適正な資産管理
- ・浄配水施設再編基本構想策定業務
- V-2 定員・給与の適正化
- ・定員の適正化・・・再任用職員を含めた定員管理を実施するとともに、引き続き業務の見直しを図り、定員の適正化を進める
 - ・給与の適正化・・・給料表の改定を始め、給与全般について市長部局に準じた見直しを適宜実施
- V-3 業務効率化に向けた民間委託の検討・実施
- ・新たな業務委託に向けた調査・検討

- V-4 遊休資産の有効活用
- ・太陽光発電用地としての有償貸付準備
 - ・施設有効活用に向けた情報収集活動や調査・研究の継続
- V-5 時代に即した料金制度等の検討・実施
- ・料金体系の調査・研究、見直し案の作成
 - ・料金改定の必要性、時期、水準の検討
- V-6 水道事業経営審議会の効果的運用
- ・水道事業経営審議会開催（3回/年）
 - ・新・マスタープランの事務事業に対する2次評価の実施



V-1 アセットマネジメントによる適正な資産管理	評価結果	効率性 C	有効性 C
目標設定項目（評価指標）		目標	実績
施設整備計画等の策定状況		施設再編基本構想策定	実施

V-4 遊休資産の有効活用	評価結果	効率性 C	有効性 C
目標設定項目（評価指標）		目標/目標累計	実績
有効活用の調査・研究・施設有効活用の実施		情報収集調査・研究	実施

V-2 定員・給与の適正化	評価結果	効率性 C	有効性 B
目標設定項目（評価指標）		目標	実績
職員数		351人以下	350人

V-5 時代に即した料金制度等の検討・実施	評価結果	効率性 C	有効性 C
目標設定項目（評価指標）		目標	実績
料金制度見直し案の調査・研究		調査・研究	実施
長期収支モデルの作成		実施	実施

V-3 業務効率化に向けた民間委託の検討・実施	評価結果	効率性 C	有効性 C
目標設定項目（評価指標）		目標	実績
新たな業務委託に向けた調査・検討		実施	実施

V-6 水道事業経営審議会の効果的運用	評価結果	効率性 C	有効性 C
目標設定項目（評価指標）		目標	実績
新・マスタープラン事業実施状況に対する意見・提言の聴取と反映		実施	実施

施策VI 積極的な情報提供とお客さまニーズの把握

主な取組み

- VI-1 戦略的な広報の実施
- ・独自イベント・・・施設見学など
 - ・お客さまに直接働きかける広報・・・災害パネル展示、出前講座など
 - ・デジタルメディアを活用する広報・・・ホームページなど
 - ・紙媒体による広報・・・広報紙、検針票裏面など
 - ・漫画を活用する広報・・・小学生向けパンフレット、工事看板など
 - ・広報紙（水先案内）の有料広告掲載による、水道料金以外の収入確保

- VI-2 お客さまの意見・要望の把握
- ・お客さまアンケートの実施
 - ・公募による水道モニターで研修会や施設見学など4回開催
- VI-3 分かりやすい経営情報の開示
- ・料金設定の仕組み（水道料金計算方法等）及びコスト情報の提供・・・ホームページで公表
 - ・経営効率化に関する取組情報の提供・・・広報誌「水先案内」に掲載
- VI-4 放射性物質を含む浄水汚泥の適切な管理と情報提供
- ・保管管理、検査、有効利用等の情報提供を継続的に実施

VI-1 戦略的な広報の実施	評価結果	効率性 C	有効性 A
目標設定項目（評価指標）		目標	実績
お客さまアンケートにおける広報紙「水先案内」の認知度		72%以上	81%

VI-3 分かりやすい経営情報の開示	評価結果	効率性 C	有効性 C
目標設定項目（評価指標）		目標	実績
料金設定の仕組み（水道料金計算方法等）およびコスト情報の提供（ホームページおよび水先案内に掲載）		1回/年以上	2回
経営効率化に関する取組情報の提供（ホームページおよび水先案内に掲載）		1回/年以上	2回

VI-2 お客さまの意見・要望の把握	評価結果	効率性 C	有効性 C
目標設定項目（評価指標）		目標	実績
お客さまアンケート調査の実施		実施	実施
水道モニター活動回数（モニター会議、施設見学会等開催数）		4回	4回

VI-4 放射性物質を含む浄水汚泥の適切な管理と情報提供	評価結果	効率性 C	有効性 C
目標設定項目（評価指標）		目標	実績
汚泥保管施設における放射線量測定結果の情報開示の継続		開示	開示
放射性物質濃度の分析調査結果の情報開示の継続		開示	開示

施策Ⅶ 技術・知識を有する人材の確保と育成

主な取組み

- Ⅶ-1 人材育成と専門性の強化
- ・技術系新規採用職員の独自採用、教育配転の実施
 - ・職員研修基本計画の見直し実施
 - ・各種研修は研修計画に基づき継続的に実施
 - ・水道研修センターの効果的運用

- Ⅶ-2 諸外国との水道技術研究交流
- ・水道技術国際シンポジウム
 - ・自治体水道国際展開プラットフォーム
 - ・日米台水道地震対策ワークショップ
 - ・国際インターンシップ受け入れ（新潟大学との共同事業）

Ⅶ-1 人材育成と専門性の強化	評価結果	効率性 B	有効性 C
目標設定項目（評価指標）		目標	実績
年間内部研修実施時間 (延べ年間研修時間/年度末職員数)		17.1時間	16.1時間

Ⅶ-2 諸外国との水道技術研究交流	評価結果	効率性 C	有効性 A
目標設定項目（評価指標）		目標/目標累計	実績/実績累計
国際研修等への参加人数		3人	4人

施策Ⅷ 環境に配慮した事業運営

主な取組み

- Ⅶ-1 建設副産物の再利用促進
- ・改良土の利用促進
 - 建設リサイクル法に基づき、アスファルト廃材およびコンクリート廃材を再生プラントにて再資源化（再生率100%）
 - 建設発生土について、埋戻しに適する発生土は再利用し、適さない発生土を改良し、埋戻し材としての再利用を進める。

- Ⅶ-2 水道局環境計画の策定と推進
- ・再生可能エネルギー等の有効活用
 - ・環境報告書の作成・公表
 - ・省エネルギー対策の推進

Ⅶ-1 建設副産物の再利用促進	評価結果	効率性 C	有効性 A
目標設定項目（評価指標）		目標	実績
建設副産物のリサイクル率		40.0%	85.0%

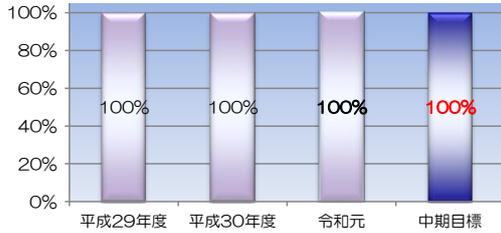
Ⅶ-2 水道局環境計画の策定と推進	評価結果	効率性 C	有効性 C
目標設定項目（評価指標）		目標	実績
水道局環境報告書の作成・公表		実施	実施



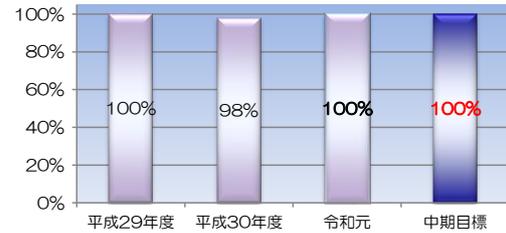
重点目標の推移

■安全でおいしい水道水の供給

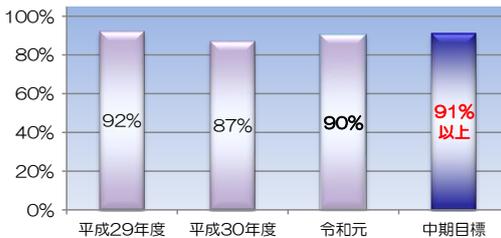
・農薬濃度管理目標達成率



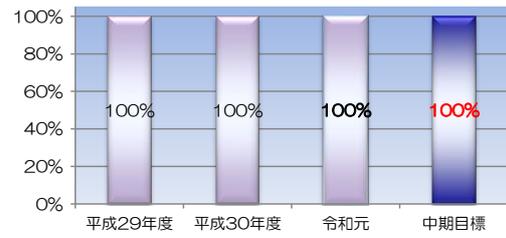
・総トリハロメタン濃度管理目標達成率



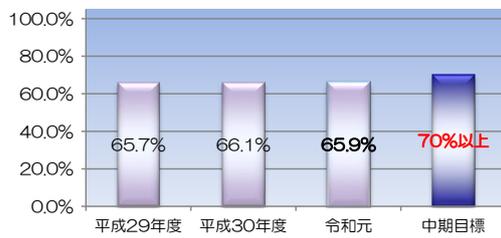
・残留塩素管理目標達成率



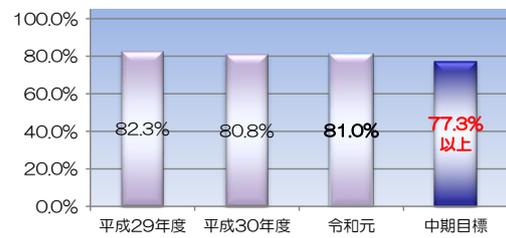
・臭気強度管理目標達成率



・学校施設水飲み水栓の直結給水化率

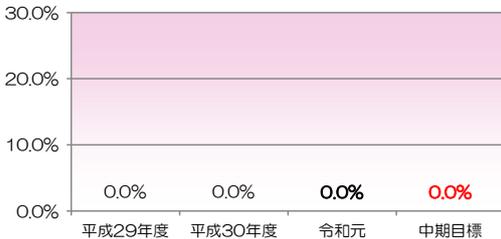


・貯水槽清掃実施率



■強靱な施設・体制による給水の確保

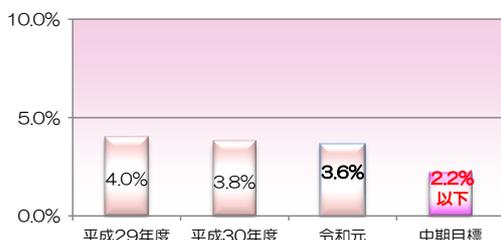
・老朽化浄水施設率



・老朽化設備率



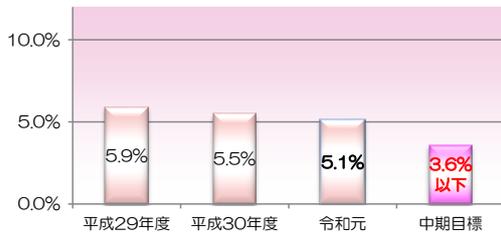
・老朽化管路率 ※1



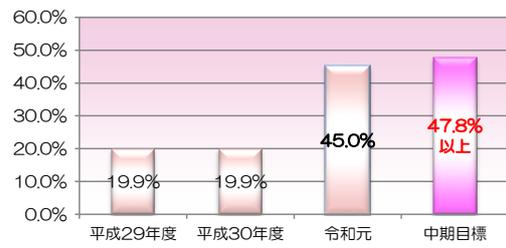
・老朽化基幹管路率 ※1



・鉛製給水管率



・浄水施設耐震率



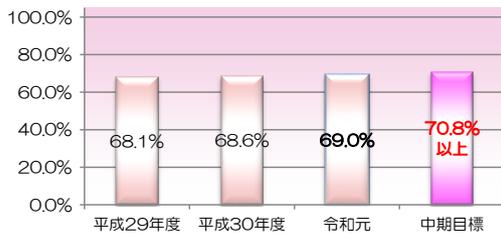
・ポンプ所耐震施設率



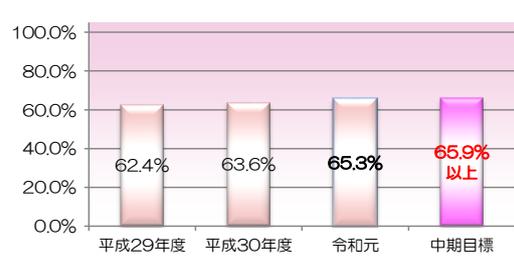
・配水池耐震施設率



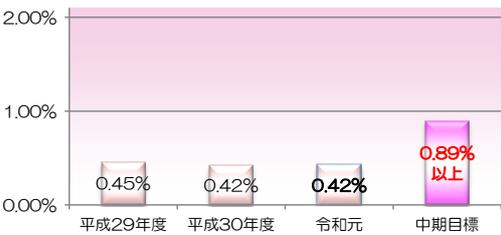
・管路耐震適合率 ※1



・基幹管路耐震適合率 ※1



・管路更新率（期間平均） ※1



・基幹管路更新率（期間平均） ※1



・小ブロック構築率



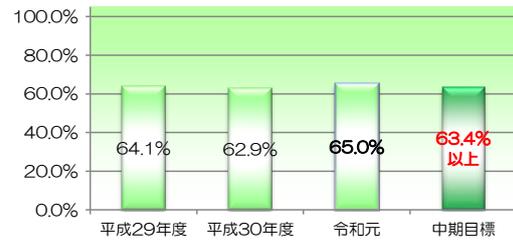
※1 算出の基となる延長は発注延長（計画値）を使用

■環境の変化に柔軟に対応した健全な事業運営の持続

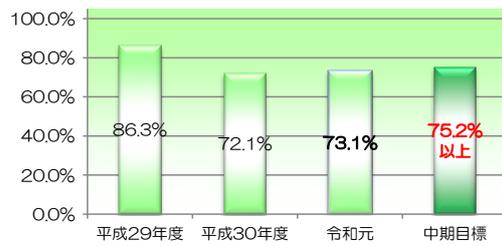
・有収率



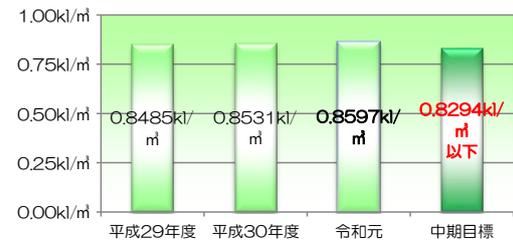
・施設利用率



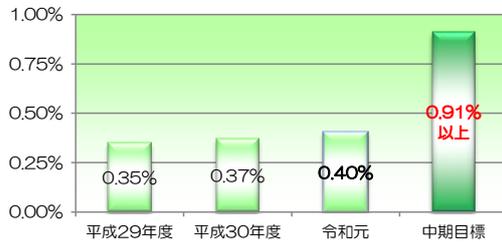
・施設最大稼働率



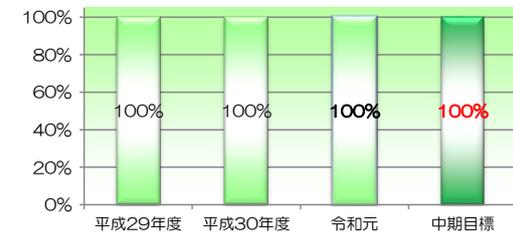
・エネルギー原単位



・再生可能エネルギー利用率



・浄水発生土の有効利用率



・内部研修実施時間

